



JCS NEWS

日本チェロ協会会報 第21号 (2004年9月30日)

2004年 サマーキャンプ 開催

7月11日(日)2004年サマーキャンプが開催されましたのでご報告します。

日 時 7月11日(日)11:00~18:30
会 場 サントリーホール・小ホール
参加費用 無料。
交通費は各自負担。非会員は参加費1000円。
(アンサンブル終了後の懇親会参加費、別途1000円。)
講 師 中島顕先生、倉田澄子先生、山崎伸子先生
参加人数 30名
講師3名、会員13名(男性10女性3)
非会員6名(男性5女性1)
聴講のみ1名、懇親会のみ3名、事務局4名
アンサンブル曲目
ヘンデル: パッサカリア
三枝成彰: チェロの為のREQUIEM

【プログラム】

1. アンサンブル練習

予定通り11:00より開始し、飯田事務局長の挨拶、参加者全員の自己紹介のあとすぐアンサンブル練習に入りました。アンサンブル曲はヘンデル: パッサカリアと三枝成彰: チェロの為のレクイエムの2曲で、中島先生にパート4番、山崎先生にパート1番に入ってください20名で通しの練習が続きました。倉田先生には客席からいろいろとアドバイスしていただきました。

2. クリニック

昼食休憩後はクリニックからスタートし、1名あたり20分の配分で6名が受講しました。舞台上で山崎先生、客席から中島先生、倉田先生が各受講者に合わせたきめ細かな指導をして下さいました。途中、中島、倉田両先生



も舞台上に上がってチェロを手にとり腕の動かし方を教えられたり、客席で聴いている参加者も両指の運動をしたり、笑いもありとても和やかな雰囲気で行いました。会員になったばかりでチェロを始めて3ヶ月という長野からいらした大学生の深見さんは、休憩中に山崎先生に弓の弾き方を教えていただき感激していました。



3. 発表会

クリニック後、2回目のアンサンブル練習を1時間行い発表会となりました。ちょうどこの日は大ホールで“ベルリン・フィル12人のチェリストたち”の公演があり、そのお客様が数名小ホールに入られ、発表を聴かれました。

4. 懇親会

17:00過ぎに終了し、そのまま小ホールでささやかな懇親会を開きました。サントリーモルツやワインを飲みながら、交流の花を咲かせ楽しんでいらっしゃいました。事務局担当となったばかりの私も今までメールや電話だけのやりとりしかなかった皆さんの演奏が聴けまたお話



【タイムテーブル】

| 時 間 | 内 容 | 詳 細 |
|----------------|-------------|---|
| 10:40 11:05 | 受付 開会の挨拶 | 出欠チェック、非会員参加費・懇親会費・会員年会費等入金。 事務局長 飯田より先生方ご紹介、スケジュール確認。 参加者全員より自己紹介。 |
| 11:20~11:55 | アンサンブル練習 1 | 演奏者：20名（中島先生、山崎先生含む）+ 倉田先生指導 聴講者：2名 〔曲目〕ヘンデル：パッサカリア 三枝成彰：チェロの為のREQUIEM |
| 11:55~13:30 | 休憩（昼食） | 小ホール後方にて3卓に分かれ、昼食（弁当）。 |
| 13:30~15:45 | クリニック | 受講者：7名 講師：中島先生、倉田先生、山崎先生 |
| 13:35 | 石島 栄一さん | シューベルト：アルペジオーネ・ソナタ |
| 13:55 | 入内島 健さん | バッハ：無伴奏組曲第2番 二短調 Allemande |
| 14:20 | 竹内 幸美さん | エルガー：コンチェルト第一楽章 |
| 14:40 | 山口 浩史さん | バッハ：無伴奏チェロ組曲4番 サラバンド、ジューグ |
| 15:00 | 堀内 純一さん | ブラームス：弦楽6重奏曲 作品36 / メンデルスゾーン：弦楽8重奏曲 |
| 15:20 | 住野 泰士さん | ポツケリーニ：ソナタ イ長調 アダージョ / プロコフィエフ：無伴奏 マーチ |
| 15:45 | 深見 悠矢さん | （休憩中、山崎先生が基本指導。） |
| 15:45~16:00 | 休憩 | |
| 16:00~16:45 | アンサンブル練習 2 | 演奏者：練習1と同じ 聴講者：6名 （大ホール公演「ベルリン・フィル12人のチェリストたち」観客4名が来場。） |
| 16:50~17:10 | アンサンブル発表会 | |
| 17:15 | 懇親会 | 小ホール後方にて。中島先生より乾杯のご挨拶。 |
| 18:20 | 閉会の挨拶 | 事務局 溝口 |

ができて、とても楽しいときを過ごしました。

【参加者の声】

堀内純一さん（R-037）

お蔭さまでまたいろいろと勉強することができ、楽しい会でした。私の感想を述べたいと思います。

1. 全体合奏は限られた時間内の練習でしたが、密度の高い、楽しい練習でした。
私の場合、山崎先生の隣りで弾かせていただき、運弓、指使い、呼吸等を間近に体験することができて大変勉強になりました。
2. 個人別クリニックでは、3先生から懇切・丁寧な指導をいただきこれもまた、今後、自分自身でチェロを勉強していく上での参考になりました。
3. これは自分の反省ですが、せっかくクリニックをして頂ける訳ですから、もっと曲目選定とかきちっとさらった上で参加すべきと感じた次第です。猛省しております。
4. ピアノ伴奏もしていただけるとの話もありましたので、次回からもっと選曲を含めいろいろと研究した上で参加したい思います。

深見悠矢さん（S-063）

参加者の方々には上手な方ばかりで初心者の自分は場違いな感じがありましたが、先生方をはじめ皆さんとても優しく、素敵なアンサンブルや、クリニックも聴けましたし、いろいろお話もできましたし、とても楽しい1日でした。

会員になって間もないために、わからないことをなにかとお聞きしたりいろいろご迷惑をおかけしてその度に親切に対応して下さいましてとても助かりました。またこういう機会があればぜひ参加したいと思います。

宮崎比呂志さん（R-214）

初参加でしたが、石島・谷口の両氏をはじめ、ふだんアンサンブルをしている仲間も多かったのも、あまり緊張することもなく楽しく過ごすことができました。アンサンブルの2曲はどちらも弾いたことがある曲でしたが、あそこまでじっくりと練習したことがなかったので大変勉強になりました。

また、現在の師匠が桐朋では齋藤門下で、倉田先生と山崎先生のちょうど間ぐらいの世代だということもあり、クリニックを聴講していても、ふだん自分がレッスンで言われることなどに通じることも多く、その点でも参加して良かったと思います。

日本チェロ協会のことは以前から気にはなっていたものの、ちょっと敷居が高い感じもしていましたが、今回のイベントに参加しそうでもなさそうなのがわかったので、近く入会の手続きをとろうと思います。

前回の「ベルリンフィル～」の来日の際、サントリーの小ホールで追加公演がありましたが、実は私、あれを客席で聴いておりました。まさか、「ベルリンフィル～」のメンバーと同じステージでチェロ・アンサンブルをする機会があるとは思ってもみませんでした。その意味でも、今回は楽しい経験ができました。今後ともよろしくお祈りします。

（ちなみに宮崎さんは非会員でサマーキャンプに参加されましたが、約1ヶ月後、ご入会頂きました。）

【参加レポート】

竹内幸美さん（R-185）

- Late starterの受けた印象 -

7月11日の猛暑の日、サントリーホール小ホールにて、JCS主催のサマーキャンプが開催されました。

指導は、倉田澄子先生、山崎伸子先生、中島 顕先生の3人の先生方です。

参加者は、経験40年の強者から3ヶ月までの18人でしたが、ほとんどの方がいわゆるリピーターでベテランが多いという印象でした。

何しろ1日だけのサマーキャンプにも関わらず、内容は盛り沢山でした。午前中は、直ちに4パートに分かれ、アンサンプルの指導を受けました。来年5月のICCでの1000人チェロという共催もあるためでしょうか。曲目は「ヘンデルのパッサカリア」、「三枝成彰のチェロの為のレクイエム」でした。私は2曲とも1000人チェロで何回か弾いていましたが、今回のパートがソプラノ(1番)でしたのでハイポジションの勉強になり、山崎先生の近くで先生の呼吸に合わせながら弾くことが出来、とても弾き易く勉強になりました。2曲とも綺麗な曲で来年5月神戸の1000人チェロでの演奏が今から楽しみです。

午前中はあっという間に時間が過ぎ、いよいよ午後のチェロクリニックに入りました。実はこれは一人約20分の公開レッスンでした。個別のクリニックとと思っていたLate starterのおじさんチェリストにとって、これはもう後の祭り。先生方3人の前でのパフォーマンスは自意識過剰でなくても辛い辛い。経験30~40年の剛のものは何やら馴れたやりとりを先生方とステージ上で交わしながら、逆に質問する者も居たりして「およびでない」という気がして参りました。いよいよ私の番が来て約1ヶ月前から始めたエルガーのチェロコンチェルト第一楽章を弾き始めました。

最初のコードの部分から萎縮し、またあがってしまった為、昨日受けたプライベートレッスンのアドバイスもすっかりどこかへいき、テンポも不正確になってきました。ボーイングについても全弓どころか1/3くらいの長さしか弓を使っていなかったのではないのでしょうか。曲の1/3位で堰を切ったように質問がきました。「どうして、エルガーのコンチェルトを選んだのですか?」「バロックからエルガーに飛んだのはどうして?」「バロックはどんな曲を弾いたの?」という本質的な問いかけから始まり、「間違ったらそのまま通り過ぎないで元に戻って弾き直さないの?」という具体的な質問まで様々な御指摘を頂きました。ご無理ごもっとも。その通りと思うことばかりです。恥をかくのが上達の手取り早い方法と聞いていたので、20分の間その場から逃げ出さず

れこれと注意を受けました。

おじさんは一つだけ懸命に釈明しました。どうしてこの曲を選んだかとの問いに対し、このコンチェルトに秘められた悲劇性が職業柄共感を覚えたからです。(子供じゃないので口は一応きけたようです。)更にこの紙面で補足させて頂ければ、「それは弾きたいと思ったからです」というのが本音です。チェロを趣味として楽しむ大人にとって押し付けられた退屈な曲はもうおじさんには結構なのです。

かくして7名のクリニックも時間通り終了し、午後4時から、午前中に先生方からご指導いただいたアンサンプル2曲の披露の時間になりました。丁度大ホールで催されたベルリンフィル12人のチェリストの公演を聴き終えた聴衆も小ホールの客席に混ざり、私共のパフォーマンスを聴いて頂きました。この時は気を取り直してやはりソロよりアンサンプルの方が楽しいと思いつつ弾き終えました。

その後先生方との懇親会があり、そして散会。重い荷物を担いでサントリーホールを後にし、新潟に戻ってきたら夜も遅くなっていました。真夏の暑さによる発汗だけでなく、冷や汗と脂汗の混じったそれはそれはナガ〜イ1日でした

以上が初参加の会員からのサマーキャンプの大筋のドキュメントと感想です。

最後にサマーキャンプについて多少の意見を述べさせて頂きます。

- 1) 一般会員がもっと参加しやすくすること。即ちチェロを愛する人が技量の良し悪しに関わらず、気楽に弾ける雰囲気はあるでしょうか。既に腕自慢大会の態をなしていませんか。極論すれば、ほとんどクリニックを受ける必要のない方が別な目的で参加されておられるように感じました。
- 2) チェロクリニックについては可能であれば公開と非公開の2つに分けて選択出来ませんでしょうか。今回のようなスタイルですとよほど自信の有る方が無神経な人でないと再参加するには勇気を要します。

以上、今年度のサマーキャンプの報告をするとともに、JCSの今後の発展を願い一会員の意見を述べさせて頂きました。

チェロサロン開催

2月29日(日) 蒔田雅治先生主宰

2004年度最初のチェロサロンは、去る2月29日サントリーホール・リハーサル室で主宰に蒔田雅治先生をお迎えして開催されました。チェロクリニックでは3名の方に受講いただき、アンサンプルでは蒔田先生にお選びいただいた「エレジー」を参加者全員でお楽しみいただきました。蒔田先生からのアドバイスと、参加者を代表して会員・住野さんのレポートをご紹介します。皆様もどうぞご参考にしてみてください。

クリニック

受講者：浅田透さん(非会員)
住野泰士さん(会員番号 R-206)
細谷亮子さん(非会員)

〔蒔田先生からのアドバイス〕

無理なく楽に弾けて、しっかりと大きな音を出すには?

力まずに、むしろ力をぬいて腕の重みをいかして弾いてみましょう。

肩甲骨をラクに、開いた状態に。

弓は“持てば持つほど”重みが伝わりません。

弓の返しについて

できるだけスピードを変えないでアップダウンの練習

を。これに尽きます。

フラジオネットはどうすれば音が引っくり返らないで
すむのか？

弦を鳴らしすぎないで、すべらせるようなイメージで。

やわらかい音、小さな音を出すとき

上腕の内側を使うことを意識してみると上手くいきます。

跳躍

例えば、「シ」と「シ」の間は、「点」と「点」と考えずに「放物線」なのだと考えてみましょう。

手首が固まって動かない場合

やはり弓をもち持ちすぎないように。例えば、物をつまむときの動作を思い浮かべて。

アンサンブル

曲目 JULES DE SWERT : エレジー

〔 苅田先生からのアドバイス 〕

- ・全音符のときは他をよく聴きましょう。
- ・オクターブで合わせるとき、下の音が強めに支え、上は乗っかる感じで。
- ・1番は高い音、いつも聞こえる“立ち”やすい音なので、F音を出すときは少し調整してみる。頑張りすぎずにラクに乗っかりましょう。
- ・音をのばした後は、裏拍を意識して。
- ・音の変わり目、チェンジをクリアに。その意識がメリハリを生み出します。
- ・次のパートへのつなぎ役は、誘い込むような気持ちで。
- ・常にゴーゴー鳴っている（笑）のではなく、出したり引っ込んだりが大切。
- ・動くところは“出る”のばすところは“引っ込む”。全音符、二分音符は引き気味。下は多少ゴーゴー弾いても邪魔しないので大丈夫です。上は普通に弾いても勝っちゃうので、下に溶け込ませるよう心がけて。
- ・dimしてほしいとき、1番が気持ちカラダを沈め気味にすると、周りがついて来ます。そんなモーションもアンサンブルを成功させるコツのひとつです。
- ・棒（指揮者）なしのメリット＝お互いをよく見よく聴く、集中したよい音楽になりやすいですね。

【参加者の声】

住野泰士さん（R-206）

このたびは苅田先生に教えていただきましてありがとうございました。先生にお目にかかるのも30年ぶり？くらいでやはり最初は緊張しドキドキでした。当初、曲目につきましている迷ったりもしましたが、ポッパーの「ハンガリア狂詩曲」に落ち着きました。

私自身の悩みは曲としてまとまらないことです。チェロ歴だけは40年ほどありなんとか間違えなくは弾けるが、パツとしないというところでしょうか。しかしながら、今回のレッスンでは少しは見えて来た感が致します。

先生のご指導は簡潔ではありますが、我々の心を読み込んだ的確なアドバイスであったと思います。左手は、早いパッセージの連続は手首も使いながら、またボーイ

ングで早い細かい連続の際の右腕の筋肉の使い方、よくよく思い返しますと、自分自身、ある程度基本ができていたつもりであった訳ですが、気が付いてみると我流でやっていたのではないかと思いました。この辺がまとまらない主な原因であったと理解致しました。

機会あらば是非次回のレッスンにも参加したく思っています。色々と苅田先生および事務局の方には大変お世話になり御礼申し上げます。

“特別チェロサロン”開催のお知らせ

お待たせ致しました！

今回のチェロサロンは日本チェロ協会堤剛会長主宰で11月27日（土）に開催することが決定しました。詳細は同封のご案内（兼申込書）をご覧ください。受講者数は先着20名とさせていただきます。ふるってお申し込み下さいますよう事務局一同お待ちしております。

日 時：2004年11月27日（土）14：00～

場 所：サントリーホール・リハーサル室

主 宰：堤剛先生

内 容：先生のお話、クリニック（希望者）
アンサンブル

「情報コーナー」についてのご連絡

今まで「情報コーナー」で会員出演のコンサート、イベント情報を載せておりましたが年2～3回の発行時期にタイミングが合ったものしか掲載できませんでした。一方、3月よりホームページを立ち上げ同様の情報を掲載致しております。今後はタイムリーに情報掲載ができるホームページにこのコーナーを移行致します。皆様のコンサート、CD販売などの情報を事務局までお送り下さいますようお願いいたします。

会員の皆様のご理解、ご協力をお願い申し上げますとともにこのコーナーをご活用下さい。

編集後記

猛暑の連続日数や台風上陸数で新記録も達成され、またギリシャ・アテネではオリンピックが開かれ日本選手団のめざましい結果を残した今年の夏でした。チェロを愛する皆様はどんな夏をお過ごしになりましたでしょうか。それぞれの心に何らかの思い出が記録されたことと思います。

これから特別チェロサロンに続き、マスタークラスの企画、そして来年5月開催の世界ビッグイベント“インターナショナル・チェロコンgres・イン神戸”の準備もますます忙しくなりますが、会員の皆様、各関連の方々と協力し合い事務局一同頑張っております。

日本チェロ協会会報（JCS NEWS）第21号

2004年9月30日発行

発 行：日本チェロ協会

東京都港区赤坂1-13-1 サントリーホール内

電話 03-3505-1001 FAX 03-3505-1007

発行人：堤 剛

編 集：日本チェロ協会事務局

編集協力：リュウカンパニー